

考古学から見る ヤハウェー神教の成立

聖書の示すヤハウェー神教が、世界の文化や社会に大きな影響を与えてきたことは言うまでもありません。このヤハウェー神教がどのように成立したのかについて、これまで宗教学や聖書学の世界では、近代西欧文化を頂点とする宗教進化論にたつて、アニミズムから多神教を経て一神教が生まれてきたと考えられることが主流でした。一方、日本では、そうした西欧中心主義的な思想への反発もあり、一神教は不寛容で多神教こそすばらしいと主張されることもしばしばあります。しかし、現在では、それらの主張にどれだけ客観的な根拠があるのか問い直されるべき時期に来ていると思われます。

本講演では、古代イスラエルや近東世界から出土する宗教的な考古遺物から、この問題に取り組みます。これまでヤハウェー神教研究は、主として聖書などの文献解釈を基礎にしたものでした。しかし、近年は考古学的情報も分厚く積み重ねられてきており、それら別種の証拠に基づいて研究する時、ヤハウェー神教の成立や性格についても新たな実態が見えてくるはずです。今回は、その一端をご紹介します。



日時： 2025年 3月1日(土) 16:15~18:00

会場： 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール

講師： 杉本 智俊 君 (慶應義塾大学名誉教授)

参加費： 無料

参加申込： <https://www.icl.keio.ac.jp/news/2025/01/202431.html>

参加を希望される方は、研究所ホームページもしくはQRコードよりお申込ください

準備の都合により事前申込をお願いしておりますが、事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能です。

